

保育者養成に求められる 保育者の資質について（2）

— 就職先へのアンケート調査の前回調査との比較から —

林 悠子・高橋 千香子・高岡 昌子・岩本 健一

奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

The Required Abilities for Students in Childcare Training School (2) : Comparing a Results of a Survey to Kindergartens and Nursery Schools with a Previous Study.

Yuko Hayashi・Chikako Takahashi・Masako Takaoka・Kenichi Iwamoto

Naragakuen University Narabunka Women's College

本研究では、平成23年度から平成26年度の本学卒業生の就職先に対して行ってきた勤務実態についてのアンケート調査のうち、自由記述から園長らが保育者養成校に望むこと、また就職した本学卒業生が評価されていることを分析した。平成17年度から平成22年度の卒業生に対する同様の分析では、保育現場では即戦力として役立つ技術や知識が第一に求められ、さらには豊かな感性や保育者ならびに社会人としての資質が求められていることを明らかにしたが、保育に関する体制や環境とともに学生像も変化中、現場が求める保育者像についても変化があるのではないかと考えた。そこで前回調査と比較しながら、保育者養成校に求められる学生の資質や今日的課題を分析した結果、保育現場では即戦力として役立つ保育の実践力は当然ながら、保育者の資質や社会人としての態度や覚悟、特に「社会人基礎力」とされる、チームで働く上で重要視される様々な能力が求められていることが示唆された。前回調査時よりも保育士不足や離職に対する保育現場の危機感はさらに強まっており、養成校としては実践能力とは別に専門職として続けられる力が何かを分析し、それを学生時代に十分に養成していくことのさらなる必要性が感じられた。

キーワード：保育者養成、保育者の資質、実践能力

1. はじめに

本学における保育者養成の在り方を検討するため、筆者らはこれまで4年にわたり保育現場が保育者養成に求める資質や保育実践能力についての教育課程別比較や、学生の意識調査を行ってきた。その一つとして、平成17年度から平成22年度の本学卒業生の就職先の所属長らが保育者養成校に対して望むこ

林 悠子・高橋千香子・高岡昌子・岩本健一 〒631-8523 奈良県奈良市中登美ヶ丘3-15-1 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

とは何か、また就職した本学卒業生についてはどのような点が評価されているのかについて分析し、保育現場ではまず即戦力として役立つ「技術や知識」が第一に求められ、保育者としての資質、社会人としての力や保育者として働く高い意識が求められること、本学卒業生については、個人の資質や人柄、働く姿勢については評価されているものの、「保育技術」に対する評価は十分ではないことを明らかにした¹⁾。

しかし、幼児教育や子育てを取り巻く環境の変化や法律の改正が行われる中、現場が求める保育者像についても変化があるのではないかと考えられる。そこで本研究では、先行研究との比較を通じた卒業生に対する評価から、保育現場が必要とする保育者の資質と本学卒業生の資質について分析し、保育者養成校に求められる学生の資質や今日的課題を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

2.1 調査内容

本学では、授業や就職指導のより一層の改善を図ることを目的とした現状把握のため、これまで「平成〇年度卒業生の現況に関するアンケート」と題して卒業生の就職先に対してアンケート調査を行っている。おもな内容は「1. 在職状況について」「2. 保育者としての姿勢について」「3. 保育の実践力について」「4. 職場でのコミュニケーションについて」「5. 本学卒業生の勤務状況について」「6. 本学卒業生の総合的な評価について」の6つの観点による質問項目について4件法で回答を求め、項目ごとのポイントや総合評価のポイントを算出し、単年度や経年での傾向の分析を行っている。

本研究では最終質問項目「上記内容も含め、養成校への要望等お書きください」に対する園長、施設長らの自由記述についての分析を行った。

2.2 調査時期

平成23年度から平成26年度卒業生の就職先である保育所・幼稚園・施設の園長ならびに施設長宛てに卒業生の勤務実態に関するアンケート調査を郵送し、同じく郵送で回答を得た。調査時期は平成24年～平成27年のそれぞれ10～11月頃であった。

比較対象とした前回調査は平成17年から平成22年度卒業生を対象とし、調査時期は平成19年（6月～7月）・平成20年～平成23年（9月～11月）であった。

2.3 調査対象と回答の属性

アンケートに回答した保育所・幼稚園・施設の数、対象となった卒業生の数、有効回答率ならびに本研究で分析対象とした自由記述数は以下の通りである（順に回答施設数/卒業生数/有効回答率/分析対象となる自由記述数）。H23年度（18ヶ所/17名/62.1%/12名分）、H24年度（25ヶ所/31名/67.4%/22名分）、H25年度（23ヶ所/27名/69.2%/20名分）、H26年度（29ヶ所/31名/73.8%/22名分）、計95ヶ所/106名/67.9%/76名分であった。なお、分析対象には、回答時点で退職していた者計9名に対する回答

も含まれている。

回答者の所属は保育園（50うち公立4）、幼稚園（17うち公立4）、施設（6）、地域型保育事業（2）、認定子ども園（1）であった。

比較対象とする前回調査は計292ヶ所/162名/55.5%/100名分であった。

2.4 分析の方法

自由記述の分析は、林ら¹⁾²⁾の前回調査を参考にし、76名分の自由記述からキーワードを抽出し、1) 養成校への要望や保育者として必要なこと、2) 卒業生が現場から評価されていること、の2点において、それぞれ「保育実践能力」「保育者としての資質」の観点でカテゴリー化を行った。

年度により回答数にばらつきがあること、また、圧倒的に保育所が多いため所属間での比較が困難なことから、年度や所属に関わらず全体的な傾向を分析することとした。今回調査と前回調査のカテゴリー度数の差についてはそれぞれカイ2乗検定を行った。

2.5 倫理的配慮

調査の趣旨や発表についてのプライバシーの確保など、倫理的配慮については調査用紙とともに送付した文書にて説明し、調査への理解と協力は回収を持って同意を得たものとした。

3. 結果

3.1 養成校への要望や保育者として必要なこと

分析の結果、合計82個のキーワードが抽出された。これらのキーワードを、前回調査と佐藤らの先行研究³⁾から、「資質や人間性」「保育者としての専門的実践能力」「社会人としての能力」「保育者としての意識や態度」「社会人としての意識や態度」「学生時代に経験・身につけておきたいこと」の6つのカテゴリーに分類を行った（図1および表1に示す）。なお、前回調査の119個のキーワードも、比較のため8つのカテゴリーから6つのカテゴリーに再分析し直した。キーワード数は「資質や人間性（29）」「保育者としての専門的実践能力（14）」「社会人としての能力（12）」の順に多く、同数の9で「保育者としての意識や態度」「社会人としての意識や態度」「学生時代に経験したり身につけておきたいこと」の順であった。前回調査では、順に「保育者としての専門的実践能力（36）」「資質や人間性（24）」「社会人としての意識や態度（22）」「社会人としての能力（17）」「保育者としての意識や態度（13）」「学生時代に経験したり身につけておきたいこと（7）」であった。カテゴリーの順に差はあるものの、カイ2乗検定の結果、今回調査と前回調査間に有意な差は認められなかった（ $\chi_0^2=11.005$ （ $p=.051$ ）, $p>.05$ ）。

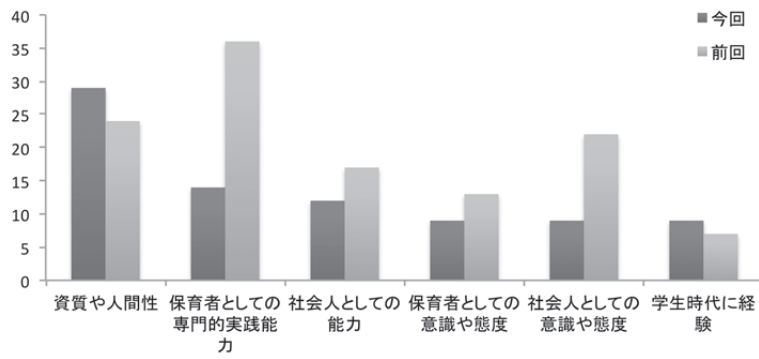


図1 自由記述から抽出された「養成校への要望や保育者として必要なこと」のキーワード数

表1 自由記述から抽出された「養成校への要望や保育者として必要なこと」のキーワードとカテゴリー

カテゴリー	今回調査			前回調査		
	キーワード			キーワード		
	数	(%)	おもなもの※()内は回答数	数	(%)	おもなもの※()内は回答数
資質や人間性	29	35.4	笑顔(3) 明るさ(3) 人間性(3) 感性(3) 元気さ(2)	24	20.2	豊かな人間性(7) 豊かな感性(3) 家庭生活で培われてきた価値観(3) 精神面の安定(3) 心身ともに健康(2)
保育者としての専門的実践能力	4	17.1	保育技術(6) DV・虐待について 児童養護施設への理解 自然物を教材にできる	36	30.3	ピアノの技術(11) 応用力・実践力(6) 指導計画の立案(6) 文章力・漢字(6) 手遊び歌あそび(5) 専門知識(5) 保護者対応(4)
社会人としての能力	2	14.6	コミュニケーション(3) マナーや常識(2) 挨拶(2) 社会人としての基礎力 周りが見える	17	14.3	マナー、礼儀作法(8) コミュニケーション能力(6) 常識(5) 挨拶(5) 言葉遣い(5)
保育者としての意識や態度	9	11.0	保育者としての心構え(2) こどもの気持ちに寄り添える こどもの育ちの理解 保育士になるという強い意志	13	10.9	気配り目配り(4) 保育者の責任や役割の重要性の理解(3) 子どもに共感し理解する意識(3) 向上心(3) 前向きな学習(3)
社会人としての意識や態度	9	11.0	1年は続ける気力(4) 意欲(3) 仕事人としての覚悟 自ら動く	22	18.5	指示待ちではなく自ら動く(9) 責任感(6) 積極性(5) 意欲(4) 即戦力(4) 人の話を素直に聞く(4) 社会人としての自覚(3)
学生時代に経験・身につけておきたいこと	9	11.0	ボランティア等による現場体験(4) ロールプレイや事例研究(3)	7	5.9	実習・保育実践(7) 保育・福祉現場でのボランティア(2)
	82	100		119	100	

3.2 卒業生が現場から評価されていること

分析の結果、合計80個のキーワードが抽出され、前項の養成校への要望にある6つのカテゴリから「学生時代に経験したり身につけておきたいこと」を除いた5つのカテゴリに分類を行った（図2および表2に示す）。なお、前回調査の54個のキーワードも、6つのカテゴリからこの5つのカテゴリに再分析し直した。キーワード数は「資質や人間性（30）」「社会人としての意識や態度（24）」「保育者としての意識や態度（12）」「保育者としての専門的実践能力（8）」「社会人としての能力（6）」の順であった。前回調査では、順に「資質や人間性」・「社会人としての能力」（17）「社会人としての意識や態度（14）」「保育者としての専門的実践能力（4）」「保育者としての意識や態度（2）」であった。カイ2乗検定の結果、今回調査と前回調査間に有意な差が認められた（ $\chi^2=15.503$ （ $p=.004$ ）， $p<.05$ ）。

また、今回調査について、現場評価のうちマイナス面について言及されたものについても分析を試みた（図3および表3に示す）。キーワード数は合計41個抽出され、「資質や人間性（15）」「社会人としての能力（12）」「保育者としての専門的実践能力（9）」「社会人としての意識や態度（4）」「保育者としての意識や態度（1）」の順であった。マイナス面については、アンケート調査の総合評価のポイントが平均より低い卒業生に集中しており、特に全体評価ポイントのワースト5の卒業生についてはマイナス評価のみがみられた。平均ポイント以上の卒業生に散見された中には、マイナス面の一方でプラス面や将来性に期待するようなコメントがみられ、弱点を指摘しつつそれを克服し成長を期待する様子が伺われた。何らかのマイナス面が抽出されたのは15名分であったが、回答者の属性では保育所9名・幼稚園5名、私立10名・公立5名であった。

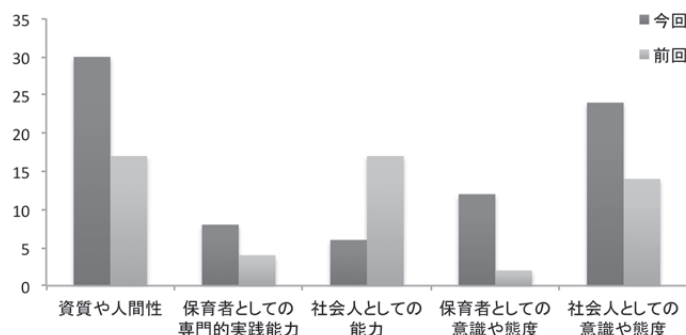


図2 自由記述から抽出された「卒業生が現場から評価されていること」のキーワード数

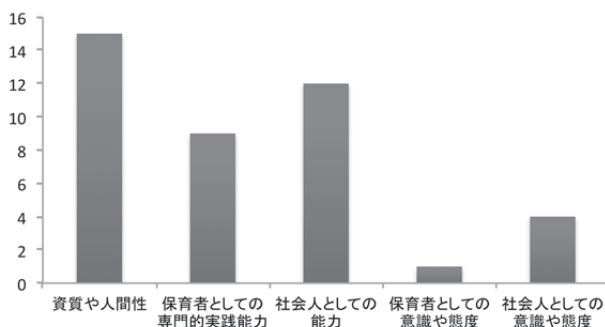


図3 今回調査における自由記述から抽出された「卒業生が現場から評価されていること」のキーワード数(マイナス面)

表2 自由記述から抽出された「卒業生が現場から評価されていること」のキーワードとカテゴリー

カテゴリー	今回調査 キーワード			前回調査 キーワード		
	数	(%)	おもなものの※()内は回答数	数	(%)	おもなものの※()内は回答数
資質や人間性	30	37.5	まじめ(8) 素直(5) 前向き(4) 笑顔(2) 明るさ(2)	17	31.5	明るい(8) 素直さ(8) まじめ(7) 笑顔(5) 優しい(2)
保育者としての専門的実践能力	8	10.0	保育案や制作のアイデア 読み聞かせ	4	7.4	ピアノ(2) ダンス
社会人としての能力	6	7.5	コミュニケーション(3) 基本的なマナーや言葉遣い 健康管理	17	31.5	挨拶(3) 言葉遣い(2) コミュニケーション(2) 円滑な人間関係(2) 他の職員との連携(2)
保育者としての意識や態度	12	15.0	子どもに向かう姿勢や心構え(4) 保育の向上への努力(3)	2	3.7	丁寧な関わり方(2)
社会人としての意識や態度	24	30.0	がんばり(8) 取り組み姿勢(5) 責任感(4) 一生懸命(3) 意欲的(2)	14	25.9	仕事に責任を持って臨む姿勢(4) 意欲(4) 努力(4) がんばり(3) 一生懸命(3)
	80	100		54	100	

表3 今回調査における自由記述から抽出された「卒業生が現場から評価されていること」のキーワードとカテゴリー(マイナス面)

カテゴリー	キーワード		
	数	(%)	おもなものの※()内は回答数
資質や人間性	15	36.6	表現(声・表情)(3) 注意された時の態度(2) 挨拶ができない 暗い 消極的
保育者としての専門的実践能力	9	22.0	ピアノが苦手(5) 実践が不十分 虫などに触れて遊べない
社会人としての能力	12	29.3	コミュニケーション(4) 期限が守れない(2) 時間がかかる(2) 言葉遣い 雑、手抜き
保育者としての意識や態度	1	2.4	子どもへの接し方が不得手
社会人としての意識や態度	4	9.8	生活・健康管理(2) 勤務に不服そう 向上心
	41	100	

4. 考察

卒業生の就職先へのアンケート調査から、前回の結果と比較しながら保育現場が養成校に求めることと卒業生それぞれが評価されている点もしくは問題点について分析を行った。

「養成校への要望や保育者として必要なこと」については前回調査とカテゴリー間での差がなかったが、今回調査では「保育者としての専門的実践能力」「社会人としての意識や態度」の回答数が大きく減り、「資質や人間性」の回答数が最も多くなっていた。実践能力として、絵画・製作・ピアノなどの保育技術や、DVや虐待に対する知識の獲得に関する要望は見られたが、保育者の資質として明るさや元気さ、子どもに対する愛情や感性などを重要視する回答であった。前回調査においても『豊かな人間性』や『感性』などが挙げられていたが、今回調査においてもそれらに加えて『笑顔』『明るさ』など、より多岐にわたる回答がみられた。「社会人としての意識や態度」については回答数が減っていたが、『意欲』『自ら動く』といった回答より特筆すべきは、残念なことに『1年は続ける気力』という回答がみられたことである。前回調査においては、調査時に退職していたケースがあったもののこのような回答はみられなかった。回答数4のうち、実際に退職していたケースは2であり、卒業生が勤務を続けていたケースにおいても「続けてほしい」という回答がみられた。このことは、早期離職をした卒業生に対する思いから厳しい意見となるのは当然ながら、続けている場合においても現場が保育者（本学卒業生に限らず）の離職に危機感を抱いている様子が伺える。保育所保育士に対する調査ではあるが、厚生労働省統計情報部による平成25年社会福祉施設等調査⁴⁾によれば、保育所においては経験年数が低い層が多く7年以下の保育士が約半分であり、離職率は10.3%となっている。これは常勤のみを対象としているが、非常勤も含めるとさらにその割合は大きくなることが予測される。また、保育士養成資料集⁵⁾によれば、就職して1年目と3年目が最初の「離職するか継続するかのポイント」であるといい、現場の『1年は続ける気力』という回答もこの傾向に即したものであると考えられる。

「卒業生が現場から評価されていること」について見ていくと、前回調査とカテゴリー間での差があり、「資質や人間性」「保育者としての意識や態度」「社会人としての意識や態度」において回答が大きく増えていた。まじめさや明るさ、素直さなどの人柄についての評価が高く、一生懸命に取り組み、周囲と相談し合おうとするなどの働く姿勢が評価されていた。一方で、マイナス面を見ると、「資質や人間性」とともに「社会人としての能力」についての回答が多く、『表現力（の乏しさ）』『コミュニケーション能力不足』『期限が守れない』などが指摘されていた。また、実践面では『ピアノが苦手』であることも指摘され、苦手であるだけでなく弾くことを避けるなどの消極的な態度であるとの指摘も見られた。マイナス面が指摘された記述からは、ピアノを含めた保育実践能力への自信のなさからますます消極的になったり、コミュニケーションが取れないため周囲にも相談できなかつたり、元々の資質として笑顔の乏しさや消極性などの保育者としての資質が十分ではないため、評価が低かつたり、退職に至ってしまうケースがあることが推測された。

養成校に対しては、技能技術は当然であるが、それ以上に学ぶ姿勢や積極性を身につけられるような意欲態度に関わること、また、実習以外での『ボランティア等による現場体験』を多く積めるような機会を設けることや、『ロールプレイや事例研究』などのより実践的な授業展開を期待する回答も見られ

た。秋山の調査においても、現場からは「保育技術的なことよりも、人間性や意欲、基本的コミュニケーション能力、信頼関係を築く能力等を重んじ」、「これらを在学中に学生に体得させて欲しいという要望や期待」が挙げられていた⁶⁾。また、現場体験の重要性は全国保育士養成協議会の報告書でも指摘されており、「期待されていない養成校という現実からの脱却をはかる」ためには、養成校は長年求められてきた即戦力としての保育者養成から、保育者としての学びの姿勢を獲得できるような保育者養成へと転換するためにも現場と養成校が実習を糸口により連携を深めていくことが大切であると述べている⁷⁾。現場体験で自信の根拠となる実践能力を養いながらも、基本的な態度を身につけていくこと、また学生自身が「なぜ保育者になるのか」や「どのような保育者になりたいのか」などを常に考えながら自分を高めていけるよう導くことが重要であり、そのことは本学全体で考える必要があると考えられた。

5. おわりに

本研究では、本学卒業生に対するアンケート調査の前回調査との比較から、保育現場が必要とする保育者の資質と本学卒業生の資質を分析した。保育現場では即戦力として役立つ保育の実践力は当然ながら、明るさや感性といった保育者としての資質、意欲やコミュニケーション能力といった社会人としての態度に加え、仕事を続けられる気力や覚悟が求められていた。また、先行研究時よりも保育士不足や離職に対する保育現場の危機感は強まっており、保育者としての資質を伸ばすことに加えて、実習だけにとどまらない現場体験を経て保育の仕事をさらに深く理解してほしいと感じていることが明らかとなった。専門職として続けていける力を分析し、それを学生時代に十分に養成していくためには何が必要であるのかを教員全体で考え、保育現場とも連携を深めながら、一体となって学生を育てていかねばならないと感じられた。

6. 謝辞

これまでの調査にご協力頂いた幼稚園、保育所、施設の園長ならびに施設長先生に感謝申し上げます。また調査の質問紙作成・集計を行って下さった本学学生課就職係の方々に感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 林悠子・森本美佐・東村知子(2012) 保育者養成校に求められる学生の資質について－保育現場へのアンケート調査より－. 奈良文化女子短期大学紀要, 43: 127-134.
- 2) 森本美佐・林悠子・(2014) 保育者養成校に求められる学生の保育実践能力と資質について. 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部紀要, 45: 123-130.
- 3) 佐藤弘毅 他(2011) 短期大学における今後の役割・機能に関する調査研究成果報告書.
- 4) 厚生労働省(2015) 保育士等に関する関係資料.
www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000...Soumuka/s.1_1.pdf.
- 5) 全国保育士養成協議会(2010) 保育士養成資料集第52号－指定保育士養成養成施設卒業生の卒後の動向及び業務の実態に関する調査報告書Ⅱ－.
- 6) 秋山真奈美(2013) 現場で求められる幼児教育職務実践能力とは？(2)－「幼児教育職務実践力尺度」を作成するための調査結果における保育所保育士と幼稚園教諭の比較－. 佐賀短期大学研究紀要, 24: 45-57.
- 7) 一般社団法人全国保育士養成協議会(2013) 平成25年度専門委員会課題研究報告書「保育者の専門性についての調査」－養成課程から現場へとつながる保育者の専門性の育ちのプロセスと専門性向上のための取り組み－(第2報).

